

Dakinivajrapañjara について

— 現存するサンスクリット語註釈を用いた考察 —

研究生 横山 裕明

【問題の所在】

『ヴァジュラパンジャラ』の成立・発展に関する主な先行研究は二つある。まず、島田茂樹氏は第四灌頂がタントラ本文にも諸註釈にも説かれていないとし、『サマーヨーガ』のへールカ族曼荼羅が『ヴァジュラパンジャラ』のパンチャダーカ曼荼羅を経て『ヘーヴァージュラ』の九尊曼荼羅に発展したことを主張している。一方、田中公明氏は、『サマーヨーガ』のへールカ族曼荼羅が『ヘーヴァージュラ』の九尊曼荼羅を経た後、再び、五部曼荼羅に拡張させて『ヴァジュラパンジャラ』のパンチャダーカ曼荼羅が成立したことを主張している。田中氏はその根拠として、『ヴァジュラパンジャラ』第十五章で説かれる十種灌頂の中に第四灌頂が説かれていること、パンチャダーカ曼荼羅の眷属が『サマーヨーガ』と一致しないことは非合理的であること等を挙げている。以上のように『ヴァジュラパンジャラ』の第四灌頂の有無に関する両氏の主張は真つ向から対立している。

【ヴァジュラパンジャラ』における第四灌頂の考察】

灌頂に関する偈について『グフヤサマー ज्या』『サンブタ』『ヘーヴァージュラ』を見ると、瓶・秘密・般若智・第四灌頂は一つのセットとして現れている。しかし、『ヴァ

ジュラパンジャラ』における類似した形の偈では般若智灌頂の後に第四灌頂が説かれていなかった。なお、サンスクリットが現存する『ヴァジュラパンジャラ』の註釈書 *tippati* には第四灌頂が明確に説かれているが、実は蘇息パンジャラ』第十五章で説かれるとされていた十種灌頂は、実は九種灌頂であり、第四灌頂が抜けている。なお、『ラグタントラテイカー』でも同様の偈が引用されている。

【まとめ】

『ヴァジュラパンジャラ』には第四灌頂が含まれていないことが分かった。ところで、前述の『ヘーヴァージュラ』の九尊曼荼羅を再度組み立てて『ヴァジュラパンジャラ』のパンチャダーカ曼荼羅が成立したという田中氏の見解は、曼荼羅の構成という視点に立った場合、やはり最も合理的な説といえる。しかし、第四灌頂の有無という視点に立った場合、『ヴァジュラパンジャラ』は第四灌頂の記述がある『ヘーヴァージュラ』よりも成立年代は遡ると見た方が合理的ともいえる。当然のことながら『ヴァジュラパンジャラ』には重要な役割を持つであろう儀礼が他にも多く説かれており、註釈書以外でも他文献との比較によつて今後多くのことが解明できると考えられる。今回とはまた異なる視点に立った場合には、はたしてどのような結論が導き出されるのか、ということを今後の研究課題とし、さらに多角的な研究を重ねて『ヴァジュラパンジャラ』の解明に励みたい。